

臨床から基礎へ、そして治療へ
— HAM研究から学ぶトランスレーショナルリサーチ

2026
11.12(木) 17:00
(16:30開場)

会場

本荘北地区 医学教育図書棟3階
KMバイオリジクス講義室

参加
登録

※参加人数把握のため、11/9（月）までに
事前の参加登録をお願いいたします。

登録フォーム



ヒトレトロウイルス学共同研究センター
鹿児島大学キャンパス 神経免疫学分野

野妻 智嗣 教授



HTLV-1は九州に感染者が多く、成人T細胞白血病（ATL）やHTLV-1関連脊髄症（HAM）を引き起こすウイルスです。HAMでは、HTLV-1に感染したT細胞とそれに対する免疫応答が中枢神経系で慢性的な炎症を引き起こし、歩行障害などの神経症状が進行していきます。

私たちは、患者さんの血液、髄液、脊髄などの検体を用いて、ウイルスと宿主双方の遺伝的背景、感染細胞やウイルス特異的免疫応答を多角的に解析し、発症要因と病態の解明に取り組んでいます。さらに、そこで得られた知見を新たな治療法の開発へつなげるトランスレーショナルリサーチも進めています。

本講演では、日々の診療の中で生まれた疑問を研究へと発展させてきた実例を紹介し、これまでに明らかになったことと、いまだ解明されていないことを振り返りながら、臨床と基礎研究が交わる面白さ、そして難治性疾患の克服に向けた今後の可能性についてお伝えします。